

子規記念博物館における購入資料の概要 (正岡子規関連資料 5 件 10 点)

松山市では、令和 4 年 2 月に正岡子規に関連する資料 5 件 10 点を購入し、子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料についてさらに調査・研究を進め、常設展示室 3 階特別展示コーナーで一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

(1) 子規の^{たけむらきとう}竹村鍛^{あて}書簡 [明治 25 年] 8 月 2 日 軸幅 1 点

学生時代の子規が、松山出身の友人である竹村鍛に送った書簡です。帰省先の松山から出したものと思われ、友人たちに子どもが生まれたことや、永田村（現在の伊予郡松前町）の友人宅を訪問し、居合わせた俳人たちと連句に興じたことなどを記しています。

『子規全集』未収録の新出資料であり、子規の若い頃の交友関係や連句に対する姿勢に関する新しい知見を得ることができ、今後の子規研究上で重要な資料になると思われます。

(2) 子規の^{かわひがしへきごとう}河東碧梧桐^{あて}書簡 明治 25 年 2 月 19 日 卷子 2 点

学生時代の子規が、松山出身の後輩である河東碧梧桐に送った書簡 2 点です。東京で俳句作りを続けていること、執筆に取り組んでいた小説「月の都」が完成したことなどを記しています。

小説家の道を諦めて俳人に転向するという子規の人生の節目を物語る資料であり、当館の研究及び展示活動において重要な資料です。

(3) 子規の^{うえはらさんせん}上原三川^{あて}書簡 明治 30 年 10 月 26 日 軸幅 1 点

子規が門人の上原三川に送った書簡です。三川は長野県出身の俳人で、この頃子規たちの句集『新俳句』の編集を手がけていましたが、本資料はその『新俳句』編集についてやり取りしたものです。

子規と門人たちの俳句活動を具体的に知る上で貴重な資料です。

(4) 子規筆「^{めしま ま}飯待つ間」後記原稿 軸幅 1 点

子規が病床での日常を綴った随筆「飯待つ間」の原稿です。本資料は文章の後記部分にあたり、子規の病床に入ってきた猫の絵が大きく描かれている点が興味深い資料です。

子規と妹の律が病床で猫と触れ合う様子等、子規の病床生活をよく物語っており、当館の研究及び展示活動において重要な資料です。

(5) 「^{めいしんしゃかいこう}明新社会稿」和綴 5 点

松山中学校に在学していた頃の子規が、^{たけむらきとう}竹村鍛、^{みなみはじめ}三並良、^{おおたまさみ}太田正躬、^{もりともゆき}森知之ら「五友」を中心とする友人たちと結成し活動していた漢詩グループで作成し、^{ごゆう}回覧した漢詩稿（回覧雑誌）5 冊です。明治 14～15 年にかけての作で、どの冊子にも子規の漢詩が掲載されています。

子規の少年時代の回覧雑誌で複数冊がまとめて保存されている事例は貴重であり、当館の研究及び展示活動において重要な資料です。

■ 購入した日

令和4年2月10日（木）

■ 購入額

1500万円 ※5件10点一括

■ 購入先

愛媛県内の業者

■ 今後の一般公開について

今回の資料は、いずれも正岡子規に関連するもので、従来の文献に掲載されていないものも含まれています。今後さらに調査研究を進めた上で、令和4年6月1日（水）から常設展示室3階特別展示コーナー（「新収蔵資料を掘り下げる（前期展）」）において一般公開します。